埋蔵文化財ニュース
2026年（令和8年）
5月7日（第17号）
富士市教育委員会
文化財課
富士市埋蔵文化財調査室

須津千人塚 朝鮮半島・百済ゆかりの帯金具を発見

保存処理でよみがえった遥か古代の文様と輝き

昨年十一月に公開が始まった市指定史跡の須津千人塚古墳において、関係者も予想しなかった新事実が判明した。

令和六年に実施した整備工事に伴う発掘調査で出土していた金属製品について、令和七年度に静岡県埋蔵文化財センターにおいて保存処理を実施したところ、朝鮮半島・百済の技術者によって製作されたとみられる金銅製の帯金具（ベルトの金具）の存在が明らかになった。

帯金具の表面には、仙人が住むと言われた山々（三神山）や鳳凰、鬼神といった特徴的で美しいデザインが非常に丁寧に彫り込まれており、六世紀後半から七世紀前半の朝鮮半島、とりわけサビ（泗沘）期百済の技術や文化を色濃く伝える。百済由来の同時期の帯金具の出土は、国内では初めて。

保存処理によって輝きを取り戻した金銅製帯金具

須津千人塚古墳は昨年11月から一般公開がはじまっている
〔株式会社フジヤマ撮影〕

聖徳太子の一族との関係性示す？

当時の倭では、法隆寺を建立した聖徳太子（厩戸王）の下に、鞍作鳥などの百済系技術者が集まっていた。駿河東部地域は、聖徳太子の一族である上宮王家が従えた、壬生部や膳大伴部とよばれる人々が居住していたことが推定されており、千人塚古墳に葬られた人物も、上宮王家のネットワークを通じて帯金具を入手した可能性がある。

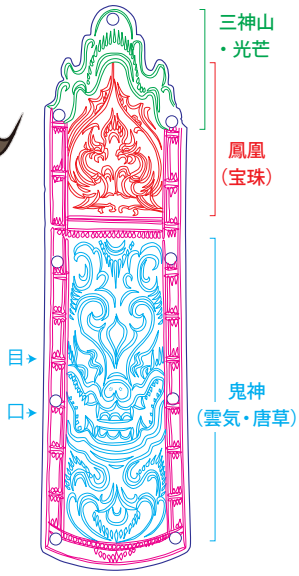
【参考写真】朝鮮三国時代の帯金具の例〔東京国立博物館蔵／ColBase (https://colbase.nich.go.jp)〕

【参考写真】左：帯を着用した鬼神が描かれたタイル〔韓国・扶余 窺岩面、東京国立博物館蔵／ ColBase (https://colbase.nich.go.jp)〕
右：三神山が表現された冠装飾〔韓国・扶余 陵山里中上塚、国立中央博物館蔵／国立中央博物館 HP〕

飛鳥時代の国際情勢とサビ（泗沘）期百済の位置

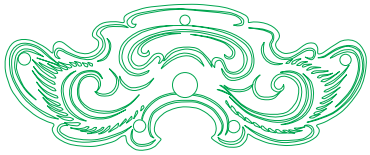
2. 銙板（表面）

（文様模式図）

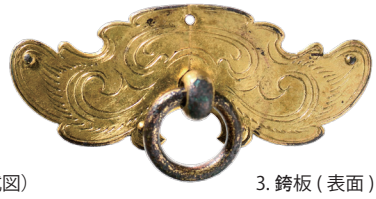


（文様模式図）

1. 帯先金具（表面）



（文様模式図）


3. 銙板（表面）

※文様の解釈は本紙発行時のもの　0　2:3　3cm

金銅製帯金具と文様の模式図